

ビルマ」正面ヲ急トナシ殊ニ航空關係ヲ優先トナス
セ一般ニ作戰準備ハ太平洋正面就中比島方面ニ大缺陷アリ 兵力資材施設ノ各般ニ亘リ之カ是正ヲ急務トナス之カ爲速カニ南方軍戰鬪司令所ヲ同正面ニ推進シテ戰備強化ヲ圖ルト共ニ中央ニ對シ之カ配慮及善處ヲ要望ス

第二 作戰指導

一 四月十五日新統帥發動シ五月五日方面軍（直轄軍）司令官ヲ會同シ國家存亡ノ懸ル所愈々皇軍ノ威德ヲ發揚スヘキヲ訓示シ且作戰計畫ヲ徹底セシム

ニ 西正面ニ在リテハ四、五月ノ間「ビルマ」方面軍ハ怒江及「チタゴン」正面ヲ積極的ニ確保シアリ第十五軍（三師團基幹）ヲ以テ「インパール」作戰ヲ續行中ナリ同軍ハ逐次敵ヲ壓迫シテ「インパール」附近ニ進出セルモ敵ノ抵抗補強ト我ガ補給困難トノ爲攻勢頓挫ス「ゴヒマ」ハ一時之ヲ占領セルモ敵ノ奪回スル所トナル又北緬方面ニ對スル攻勢（第十八師團基幹）ハ優勢ナル敵ノ進出ニ遭ヒ逐次「カマイン」方面

ニ後退ス第三航空軍ハ主力ヲ以テ「ビルマ」方面軍ニ協力中ナルモ時
日ノ延長ニ伴ヒ逐次疲勞ノ色アリ

右情勢ニ處シ南方軍第三十三軍新到着師團ノ急派地上及航空若干部
隊ノ轉用、軍需資材特ニ輸送力ノ推進等夫々努ムル所アリシガ元來有
力ナル轉用豫備ヲ有セス殊ニ鐵道輸送障害ノタメ諸般ノ處置甚々微温
的ナルヲ免レス

三 東正面ニ在リテハ四月初第二方面軍ハ西部「ニューギニヤ」ニ於テ海
上輸送遲延ノタメ戰列部隊トシテ漸ク一師團基幹ノ第二軍ヲ「ヘール
ヴィング」灣附近（第三十六師團主力「サルミ」附近其ノ一聯隊「ビ
アク」島）ニ配置シ得タルノミナリ四月末當時航空部隊及後方部隊ノ
ミナリシ「ホランヂア」ハ敵ノ急襲ヲ受ケ其ノ數日前急遽作戦地境
變更セラレ南方軍地域内ニ入ルト雖同地ニ對シ直接策ノ施スヘキ餘地
ナシ 第二方面軍司令官ハ憤然トシテ之カ救援ノ爲步兵一聯隊山砲一
大隊基幹ノ支隊「サルミ」ヨリ派遣セリ

情勢ノ緊迫ニ伴ヒ南方軍ハ第二軍方面ニ對スル軍隊軍需ノ前送ヲ促進

スルト共ニ五月中旬戦闘司令所ヲ「マニラ」ニ推進シ太平洋正面ノ決戦準備ヲ督勵ス。五月二日中央ヨリ第十八軍ヲ西部「ニューギニヤ」方面ニ轉移スヘク命シ來ル。

五月十七日敵ハ「サルミ」附近ニ上陸ヲ開始シ第二方面軍ハ「ホルラ」ンデヤ」救援部隊ヲ反轉セシメ第三十六師團ハ敵ヲ攻撃壓迫セルモ敵ノ増強ニ依リ戰勢六月ニ入り我レモ不利トナル。

五月二十七日敵ハ「ピアク」島ニ上陸ヲ開始シ同地支隊善戰敵ヲ海岸ニ壓倒セルモ彼我ノ増援懸隔アリ敵優勢ヲ持スルニ及リ六月末持久態勢トナル之ヨリ先南方軍ハ「サルミ」作戦間「ピアク」島強化ノタメ「サンボアング」ニ待機中ノ海上機動第二旅團ヲ海軍艦艇ニ依リ推進スヘク部署スル所アリシガ之カ實行ハ六月ニ入り時恰カモ「ピアク」島ノ敵氣息奄々タルノ好機ニ乘スヘカリシニ海軍ハ敵機ノ觸接ヲ理由トシ目的地ニ近ク進出シタルニ拘ラス可惜「ソロン」ニ引返セリ。從來此ノ方面本防禦線上ニ支撐點ハ「サルミ」及「ピアク」ナリシニ拘ヘラズ四月末ヨリ五月上旬ニ亘リ中央ハ確保スヘキ第一線トシテ先

ツ「ピアク」次テ「マノクワリ」更ニ次テ「ソロン」ト連續三回ノ指
示變更ヲナセリ此ノ間第三十五、三十二師團等ノ輸送完了シ配備地點
ニ論争アリシカ結局中央ノ後退案ニ依リ「ソロン」及「ハルマヘラ」
ニ配置ス 此ノ邊特ニ中央ノ處理遲延ト細部干涉トヲ特徴トナス

第三 所 感

一中央ニ於テ確乎タル決戰思想ノ窺知スヘキモノナシ其ノ結果トシテ兵
力資材施設共ニ廣大ノ地域ニ極度ノ分散ニ陥リアリ新統帥ニ入ルト雖
之ヲ修正スヘキ輸送手段無ク不愉快限リナシ太平洋正面ヲ海軍ニ依存
シタルタメカ當時西部「ニューギニヤ」ハ僅カニ一師團ノ配兵ヲ以テ
長時日放任セラレ殊ニ比島ハ正規師團ニ（後一増加ノ豫定）裝備不良
ノ混成旅團四ヲ算スルノミ何ソ決戰ニ堪エン乃チ即時第二方面軍豫定
兵力資材ヲ推進スルト共ニ勝敗一決ノタメ比島決戰十五師團案ヲ提唱
セルカ無謀ノ言トシテ一蹴セラル

又過少ノ航空資材ヲ集結機動ニ應スル如ク集積スルタメニハ正ニ易斷
神算ヲ要シタリ